

らホテル代などは高く、研究所のサポートがあったとはいえ、規定の費用から足が出たため、費用の一部は自腹となった。少しでも安いホテルを探す機会費用も意外と大きい。

しかし、一番の痛手は育児についてだ。一人娘がいるが、土日が学会ということで、妻一人に娘を見てもらうこととなった。妻は平日フルタイムで就労しており、土日は身体を休める貴重な休日だが、負担をかけてしまった。オンラインだとこれらのデメリットは基本ない。テレワーク研究の報告をいくつか聞き、討論を務めた。テレワークは生産性を高めるという研究結果があったが、必ずしもそうではないのではないかと思う。一方で、 $n=1$ の個人の感想に過ぎないが、テレワークの育児への効果は正に有意であろう。(茂木洋之 記)

## 日本人口学会2022年度第1回東日本地域部会

2023年9月20日(水)午後及び9月21日(木)午前の2日間の日程で、東日本地域部会が札幌市立大学サテライトキャンパスにおいて、対面とZoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催された。昨年度の東日本部会では、11の口頭報告が行われるという近年開催された地域部会のなかでも最も報告数の多い部会となり、ほとんどの報告において質疑を途中で打ち切るようなやや忙しい進行となった。地域部会は人口学会・年次大会と比べて萌芽的な課題や技術的な側面を含む報告についても詳細な議論ができる場という性格があることから、今回の部会は余裕をもったスケジュールで開催されたものである。

今回の部会では、対面参加者による5報告とオンライン参加者による3報告とを合わせた8の口頭報告が行われた。社人研からは、清水室長と菅が報告を行った。そのほか、オンライン参加者の出席総数は正確に把握していないが、常時20名前後の参加があったように思う。当初計画された日程から急遽開催日程が変更になったことや大学に所属する学会員は学事等の事情があったためと推察されるが、昨年度と比べると小規模な開催となった。一方で、報告時間に余裕をもったプログラムであったため、すべての報告について技術的な側面も含む濃密な討論が行われたことが印象的であった。来年度以降も、十分な討論時間が確保され、各参加者が相互に刺激を受ける有意義なものとなることを期待したい。

なお、プログラムは日本人口学会のホームページ(「2023年度第1回東日本地域部会開催のお知らせ(第2報)」)に掲載されているため割愛する。(菅 桂太 記)

## 第82回日本人口学会九州地域部会

2023年9月24日(日)午後、佐賀県佐賀市西九州大学佐賀キャンパスにて、第82回日本人口学会九州地域部会がハイブリッド形式で開催された。佐賀出身の山本和子琉球大学第一内科教授による「新型コロナウイルスのプラネタリーヘルス」と題する特別講演に続き、佐藤龍三郎 中央大学経済研究所、原俊彦 札幌市立大学名誉教授により近著の紹介報告がなされた。その後、筆者による「1920年前後の乳児死亡率と出生率の低下要因—非嫡出出生割合に注目して」、有馬久富 福岡大学医学部衛生・公衆衛生学講座教授による「長崎県壱岐市における慢性腎臓病(CKD)予防の取り組み」の二報告が行われた。

今回の日本人口学会九州地域部会は第82回であり、今年が第75回であった全国大会よりも回数が多いが、これは一年に複数回行うことがあったからのようである。九州部会は医学・保健関係者が多く、